

令和 8 年度 一般財団法人鳥取県観光事業団事業計画

1 基本方針

令和 7 年度は、燕趙園の開園 30 周年、県立美術館開館などを契機とした施策、地域および外部団体との連携事業推進など創意工夫のもと各種事業を実施し誘客促進に努めた。また、台湾・高雄および香港を対象とした営業活動を実施し、インバウンド需要の獲得に取り組んだ。

さらに、鳥取県主催の県立観光施設等活性化プロジェクトチームに参画し、新たな誘客対策を検討した結果、その内容が令和 8 年度県予算に計上され、活性化施策が実施される予定である。

令和 8 年度は、当財団内の施設で横断的に展開可能な事業の企画・実施と施設間連携による事業充実、スケールメリットを活かした効率化と継続的な改善、新規事業への挑戦により集客力向上を図る。これらの取り組みにより、鳥取県の観光振興および地域活性化に貢献する法人としての価値向上を目指す。

観光業界においては需要が回復する一方で、深刻な人手不足の継続が見込まれる。組織内部における各種リソースの増強を重要課題として位置づけ、職員の心身の健康維持・増進および能力発揮を支える環境整備を進め、組織の活力向上と持続的な生産性向上につなげる。

2 集客目標（単位：人）

施設名	令和 8 年度 (A)	令和 7 年度 (A)	対比 (A) / (B)
こどもの国	177,000	188,000	94%
かにっこ館	260,000	245,000	106%
青谷かみじち	35,000	36,000	97%
響の森	49,000	48,000	102%
臨海公園	240,000	234,000	103%
燕趙園	118,000	106,000	111%
なしっこ館	166,000	145,000	114%
タワー	130,000	112,000	116%
花回廊	320,000	315,000	102%
合計	1,495,000	1,429,000	105%

※令和 7 年度の目標人数について、以下のとおり年度当初に遡って修正した。

【青谷かみじち】無料エリア利用者数を加えた。

【響の森】集計方法の変更によりイベント参加者数を加えた。

【燕趙園】今期に管理施設が臨海公園から燕趙園に変更された長和田地区の利用者数を加えた。

令和8年度 事務局本部事業計画

1 令和7年度重点項目の成果等

(1) 働きやすい職場環境づくりの推進

- ・リーダー、スタッフ、パートスタッフ職員の賃金の引き上げを実施した。
- ・改善検討委員会を開催し、職場環境の現状把握と改善に向けた検討を行い、子を養育する職員の柔軟な働き方を実現するため新たに養育両立支援休暇を制度化した。
- ・課題としていた男性職員の育児休業取得の成果があった。
- ・残業時間削減や体制改善などに課題が残る。→2 (2)

(2) 人材育成制度の充実

- ・専門業者による集客部門の実務研修、本部主催の新人研修、若手職員対象研修を実施したほか、全職員を対象とした全体研修においてカスタマーハラスメント、コンプライアンスをテーマとする研修を実施した。また、外部研修情報を施設に提供し参加を推進した。中長期的な人材育成制度の運用の改善に課題。→2 (3)

(3) 人材の確保対策

- ・将来の人材確保に向けてインターンシップ支援サイトの活用を推進した。

(4) インバウンド集客促進対策

- ・台湾・高雄及び香港における商談会への参加および観光レップとの提携等により新規営業先開拓を図った。
- ・インバウンド受入れセミナーに参加し職員の理解促進を図った。

2 令和8年度に取り組む重点項目

(1) スケールメリットを活かした集客対策

- ・施設間で横断的に展開可能な事業の企画・実施等、施設間連携による事業充実

(2) 働きやすい職場環境づくり【継続】

- ・職員の処遇改善
- ・職員の心身の健康維持・増進および能力発揮を支える環境整備（長時間労働の未然防止策、メンタルヘルスケア等）
- ・業務効率化（システムの見直し及び利用検討、業務委託の検討、事務手順の整理等）

(3) 人材育成制度の充実【継続】

- ・中長期的な育成計画、職員個々に対応した育成の仕組みづくりなど制度運用の改善

(4) インバウンド集客促進対策【継続】

- ・商談会への参加、観光レップとの提携等による新規営業先の開拓
- ・インバウンド研修参加など、対応職員のレベルアップ

3 令和8年度その他特記事項等

- ・鳥取県主催の県立観光施設等活性化プロジェクトチームによる活性化施策の実施
- ・鳥取県の所管課と緊密に連携した、迅速な課題解決
- ・各施設の収支状況、事業実施状況の把握、事業予算の執行と運営の改善

令和8年度 鳥取砂丘こどもの国事業計画

1 令和7年度重点項目の成果等

(1) 森林乗馬トレッキングコースの設置およびアニマルセラピーの実施

これまで芝生地で行っていた乗馬イベント体験に、新たに樹林地に森林トレッキングコースを設定。新たな体験提供ができた。また福祉施設の児童を招待したアニマルセラピー（ホースセラピー）体験も実施し参加者から高評価をいただいた。

(2) 自然観察ゾーンの設置（いきもの観察）

自然観察ゾーンの整備を進め、対象区域で支障木の伐採、危険な段差をなくす造成などを行ったほか、カブトムシ等が発生するよう腐葉土コンポストを設置した。整備ゾーンを昆虫観察会などのイベントで活用できた。8年度も歩道造成などを実施し更に充実させる。

(3) 砂丘地域の連携事業

隣接するキャンプ場を活用したデイキャンプイベントや RC サーキットでの連携イベントを実施して、周遊を図ったり繁忙期の駐車場相互利用を行い協力体制を築けた。来年度利用に向け、砂の美術館、ビジターセンター等と共同で小学校向けの砂丘体験学習チラシを作成、配布し誘客に努めた。⇒2（1）

2 令和8年度に取り組む重点項目

(1) 砂丘地域の連携事業【拡充】

ヤマタ鳥取砂丘ステーション等との連携を進め、事業者間の協力関係はできてきたと感じるが、実際の集客効果は未知数である。実際の誘客につながるよう、砂丘会館との公民館営業、砂丘周辺事業者との小学校の山陰海岸ジオパーク校外学習誘致、インバウンド周遊促進など、更に多方面にわたり、砂丘地を活かした営業活動等に取り組んでいく。

(2) のりもの広場改修事業【継続】

のりもの広場は7年度に変形自転車コースの拡張工事を行う予定であるが、近年の新設遊具設置に伴う新規感増進のため、さらに継続して案内看板やベンチのリニューアルなどを行い、親しみやすく利用しやすい空間へと改良する。

(3) 安全管理体制の再整備【新規】

遊具について、遊具の新設や安全管理基準変更、また園内事故等もあったため、管理方針・マニュアル等を改めて再点検し、体制強化を図る。具体的には各遊具の管理方針、安全管理マニュアル、点検整備票等の確認・再整備や専門業者による管理指導研修を実施。

3 令和8年度の収入確保策

(1) ポケモンを活用した魅力発信

幅広い年代に愛されるポケモン（サンド）を活用した情報発信により訴求効果を高め集客増を目指す。時機をとらえた売店商品などで収入につなげる。

(2) 学校団体等への営業

学校団体等への営業活動を行い、来園者増及び体験利用等関連消費増による収入増につなげる。

4 令和8年度その他特記事項等

園内老朽箇所の修繕

老朽化した遊具、設備も多いため、鳥取県と連携し計画的な修繕、更新を実施する。

令和8年度 とっとり賀露かっこ館 事業計画

1 令和7年度重点項目の成果等

(1) 水槽新設事業（クラウドファンディング）

生き物タッチングの年間利用者目標を2600人（前年度比150%）としたが、達成は困難な見込み。目標が高すぎたと考えている。（1月末現在で利用者2100人、前年度比126%）

(2) ナイトアクアリウム（→2（1）【拡充】）

夜間開館は夏の3日間は352人（前年2日間443人）、冬の1日は48人（前年2日間56人）となった（入館目標、夏200人・冬50人/日）、前年にも目標にも届かなかったため新たな方策が必要。

(3) 魚食普及事業

○試食まつりについて、かろいちと共同で実施した。春は強風のため中止。秋の実施は該当日の前年比入館者147%と伸び、来館者の評判も良かった。

○川柳コンテストについて、6月と11月にXで実施。前年度比参加者は伸びてないがフォローは伸びるため継続。（参加者194名874回答。前年度237名942回答）

※（1）と（2）について、令和8年度も継続するが重点項目からは外す。

2 令和8年度に取り組む重点項目

(1) アクオドナイト・ナイトアクアリウム【拡大】（←1（1））

オンラインゲーム「アクアリウムは踊らない」とコラボしていることから、アクオドナイトと称して、コスプレで入館し、SNSをフォローしたらオリジナルTシャツをプレゼント。入館者の増とSNSのフォロワー獲得を目指し、夜間開館の浸透を目指す。

(2) 芝生広場活用事業【新規】

春・秋の週末、キッチンカー等を誘致し賑わいを創出することで、入館者の増加につなげる。また来場者に向けて「心地の良い場」を提供することで、マリニピア賀露のリピーター確保につなげる（年10日程度）。入館者増加の新たな方策が必要なため実施。本事業を行うことで滞在時間を増やし入館者の増加を目指す。

3 令和8年度の収入確保策

(1) ミニ縁日

GWや秋の行楽シーズンに芝生の広場で金魚すくいなどのミニ縁日を開催し、収入の確保に努める。

(2) オリジナルグッズ販売

「アクアリウムは踊らない」とのコラボグッズなど、ファンに喜ばれる新たなオリジナルグッズなど制作し、収入の確保とファンの獲得を行う。

4 令和8年度その他特記事項等

(1) クラウドファンディング

懸案になっている、屋外プール屋根の設置のためにクラウドファンディングを募る。夏場の水温上昇や藻の繁殖を抑えることで職員による清掃作業の短縮を図り集客や収入確保にかかる事業に重心を置く。また夏場の日よけになることでより利用しやすい環境を作り入館者増を目指すし、さらに新たなファンを獲得する。

(2) 山陰海岸ジオパーク受入施設加入

R7年度から実施している「学校向け生き物タッチング体験」をメインメニューに、団体増を目指す。

令和8年度 氷ノ山自然ふれあい館 事業計画

1 令和7年度重点項目の成果等

(1) 春(GW)、夏、秋の特別企画等の開催→2(1)

- ・春(GW):「ネイチャーキッズフェスティバル」
6年度までと異なり「移動木育広場」を設置。アウトドアクッキングイベント等を開催して、参加者数が前年比159%と盛況だった。
- ・夏:「DANBOL(ダンボル)展」
参加者数が前年度の「棚田展」対比で119%と増。鳥取県初開催でダンボール製お面と氷ノ山の風景写真が似合っていた。お面づくりコーナーが好評でリピート参加もあった。
- ・秋:「へえ!と言わずにいられない自然ガイドのネタ帳展」
自然ガイドくますけ氏による鳥取県初のイラスト展と体験型の展示を行い、前年度「ネイチャージャーナル展」の実観覧者数並みの参加者数。クイズラリーやビンゴも好評。

(2) 施設の充実や展示改修への取り組み

- ・館内に中継機を設置し入館者がどこでもWiFiを利用できるようになった。今後はオンラインスクールやスマホ活用の展示解説に活用する。
- ・駐車場の看板に施設や登頂記念バッジを紹介するポスターを掲示し、登山者へPRした。

(3) 営業・広報活動

- ・放課後等デイサービス事業所に施設PR資料を送付し、利用増になった。
- ・若桜町観光協会と連携して宿泊研修や校外学習のPR資料を作成。鳥取市内小学校へ配布。

2 令和8年度に取り組む重点項目

(1) 春(GW)、夏、秋の特別企画等の開催→1(1)

- ・春(GW):木製の滑り台等「木育広場」の設置やアウトドアクッキング等の開催【新規】
- ・夏:「廃材アート展(仮称)」廃材から制作した麒麟等作品展や工作コーナーの設置【新規】
- ・秋:「土壌生物の写真展(仮称)」土壌中の小さな生き物の写真展や観察会の開催【新規】

(2) 通年イベントや横断的イベントの開催【新規】

- ・気軽に四季の自然を楽しむイベント「ピクニック×カフェ(コーヒー、紅茶、抹茶)」を開催する。
- ・「星空キャラバン」として観光事業団の各施設で星空観察会を開催する。

(3) 館内展示の充実【拡充】

- ・職員が展示を解説する動画を作成し、館内展示に設置したQRコードで利用者が視聴できるようにする。

(4) 営業・広報活動【拡充】

- ・鳥取県子育て王国課等との連携や子育てサークルへのPRにより子育て世代の集客を図る。

3 令和8年度の収入確保策

(1) 新規イベント等の集客による参加料収入増

- ・新たにピクニックの開催やセルフによるドリップコーヒーの販売で参加料収入を増やす。

(2) リクエストの野外活動等参加料の値上げ

- ・団体リクエストの野外活動、エコツアー等の参加料を値上げする。

4 令和8年度その他特記事項等

(1) 氷ノ山の環境保全への取り組み【継続】

- ・希少植物のコキンバイやマイヅルテンナンショウを保護するための取り組み等。
- ・アカハライモリ等の生息地の環境整備や調査。・チョウのモニタリング調査。

令和8年度 東郷湖羽合臨海公園事業計画

1 令和7年度重点項目の成果等

(1) シニア向け教室の充実【新規】 → 【継続】

南谷地区の再整備にともない体力測定広場が廃止予定のため、シニアの体力づくりに関する機能の維持が求められる。新規3講座を開始し利用者の増につなげた。内容については精査の必要がある。次年度は外部講師の講座を追加していきたい。

(2) アクティビティの提供【継続】

東郷池でのカヌー・サップの体験メニューの提供を継続して実施。体験動画の制作、配信等PRを行ったが、夏季シーズンの利用者が酷暑の影響もあってか伸び悩んだ。

(3) 藤津地区の植栽整備【新規】

公園の冠水による植栽への悪影響に対して植栽面の見どころを維持するため整備を行う予定だったが、東郷池の極度の塩分濃度上昇が発生し株の大部分が枯死する事態となり、ハナショウブ植栽の継続自体に想定以上の懸念が生じている。今年度は試験的に圃場のかさ上げをして植栽し、次年度以降の経過により今後の在り方を判断する。

2 令和8年度に取り組む重点項目

(1) 藤津地区の植栽整備【継続】

7年度に試験的な措置を講じたが、経過観察しながら最大の見どころであるハナショウブ植栽の回復・維持に努める。同時に公園内の他の花の植栽の底上げを図る。

(2) 南谷地区の再整備に合わせた遊び場提供【新規】

南谷地区の再整備でパレット型噴水の設置がされるため、子供たちの遊び場として活用が進むよう、夏季のイベントの一環として周辺での遊び場を提供する。

(3) スポーツ体験会の実施【新規】

子ども対象のスポーツ体験会を実施することで、周辺地域におけるスポーツ人口のすそ野拡大、将来的な施設の利用促進につなげる。

3 令和8年度の収入増加策

(1) 使用料収入の増加策

トレーニングルームの利用者増：シニア層、女性の利用者増加が見られる→定着を図る。夢広場でのイベント等、利用のすそ野の拡大を図る。

(2) 参加料収入の増

- ・アクティビティ体験利用者の増、教室の充実による増加に向けて内容の充実、PRの促進を引き続き取り組む
- ・スポーツ教室の参加料値上げ → 資材費、講師料の高騰に対応し値上げ予定

4 令和8年度その他特記事項等

(1) 南谷地区再整備

噴水広場 GW 頃にオープン予定。8年度は夢広場の体力測定広場を駐車場に整備予定
9年度、遊具の広場、花のスポット等を整備

令和8年度 中国庭園 燕趙園 事業計画

1 令和7年度重点項目の成果等

(1) 入園無料化の試行

- ・令和6年度と同一日程にて実施。試行期間入園者数は16,698人(R6年度の比78.8%)、売店・園内消費の売上は14,508千円(同91.0%)と収益増は図れなかった。

(2) 夏期イベント開催→2(1)

- ・新日本海新聞社との共催で「いきものさわっちゃ王国」を開催。昆虫・水生生物のふれあい・展示を開催。入場者数は14,179人(対前年96.0%)。

(3) 30周年記念事業【新規】

- ・県からの受託事業として、8月30日に30周年記念事業を開催。式典、昼食会の他、中国の展示会や花火時の太鼓演奏会などを実施。

(4) 四季を通じた見所及び木陰のある空間の創出→2(3)

- ・宿根草花壇(2つ目の区画)の造成、「紅葉の並木道」町報で町民への周知を図る。

(5) 地域連携によるウォーキング大会の推進→2(4)

- ・継続して地域連携によるウォーキング大会等の実施運営や実行委員会参画を行った。

2 令和8年度に取り組む重点項目

(1) 夏期イベント開催【拡充】←1(2)

- ・新日本海新聞社との共催で「ふれあい動物園」(仮称、未定)
- ・SNS広報をはじめ広域への情報拡散

(2) 中国文化発信事業【拡充】

- ・中国関連団体との連携事業を行う。
- ・声優による園内ガイドなどサブカルチャー振興も図る。(県予算)

(3) 四季を通じた見所及び木陰のある空間の創出【継続】←1(4)

- ・継続して見どころの創出、新たな見どころなどを地元地区への説明

(4) 地域連携によるウォーキング大会の推進【継続】←1(5)

- ・継続して地域の各種大会に参画

3 令和8年度の収入確保策

(1) 有料入園者増による収入増

- ・R6年度、R7年度に実施した入園料無料化試行未実施による収入増。

(2) 園内消費の強化

- ・漢服レンタルの充実(衣装の拡充、小物の貸出)・コイエサ販売
- ・園内屋台のメニューの見直し

(3) 道の駅の販売強化

- ・道の駅飲食の商品開発を継続

4 令和8年度その他特記事項等

(1) 集客目標

令和8年度 68,000人(入園料無料化試行がなくなるため減)

令和7年度 70,000人

令和8年度 鳥取二十世紀梨記念館 事業計画

1 令和7年度重点項目の成果等

(1) 梨に関するアート展

「くらし旅日記」(7/19~9/28)

(R7:59,707人←R6:49,571人←R5:33,463人←R4:29,074人←R3:16,597人)

5回目の開催で夏の定番イベントとして定着

梨娘が鳥取中部を巡り、観光地・特産品などを紹介アンケート結果も好評

(2) 鳥取県立美術館連携事業

なしっこ館・美術館セットプランを作成し、旅行会社への営業を実施

夏イベントチラシを合同で作成し新聞折込を実施(鳥根東部・岡山北部)

正月新聞広告・テレビ番組など共同実施

(3) 梨の補助読本の作成

パワーポイントで紙芝居風の資料(北脇永治さん物語)を作成し、小学3年生の授業で出前授業を実施。

AIを活用し子供になじみやすい図柄の作成に努め、梨づくりへの関心度を高めた

2 令和8年度に取り組む重点項目

(1) 25周年事業【新規】

地元アーティストによるPRポスターの作成

ナッシー着ぐるみのリニューアルによる利便性の向上を図り活躍機会の向上

25周年ノベルティーの作成(オリジナル缶バッジ、メモ帳など)

「北脇永治さん物語」に梨の歴史や栽培などの解説を拡大

(2) 梨に関するアート展【継続】

「なしっこ館」をテーマに施設の魅力が伝わるような内容で計画

25周年を一緒にお祝いできるような撮影スポット作品

SNS等で作品を少しずつ発信し、イラスト展への集客及び施設認知度向上を図る

(3) パーラー新商品開発・販売【新規】

梨チップスを使用したオリジナル新メニュー「梨ティー」の販売(秋冬限定商品)

3 令和8年度の収入確保策

(1) 梨販売

梨の県内生産量は年々減少の一方で、入館者の増加による食べ比べ・販売用の梨需要は増加している。高温障害・カメムシ・台風などによる被害が発生すると、十分な確保が困難となるため、複数の入荷ルート(選果場・個人生産者)の確保・開拓

(2) 売店オリジナル商品

25周年ナッシー関連グッズ、アート展関連グッズ

4 令和8年度その他特記事項等

室内イルミネーションの充実

倉吉クリスマスマーケット(企業・倉吉市)との連携

令和8年度 夢みなとタワー事業計画

1 令和7年度重点項目の成果等

(1) 春・夏の大型イベントの実施

春休み「ダンボール遊園地(自主開催)」、夏休み「魔法の美術館(日本海新聞と共催)」を実施。春イベントは万博の影響を受けGWに伸び悩み計画を下回ったが、夏イベントは地元対策を強化することで目標を上回る成果をあげることができた。ただし、計画時点でイベント規模の違いがあり、前年比の入場者数は減少した。

(2) 夢みなとシアターの活用促進「SAMANSA シアター」の実施

3F映像シアターは、設備は立派だがソフトの魅力が不足しており、イベント時以外は利用者がほとんどいない状態であったが、短編映画の配信会社SAMANSAとの業務提携を行い短編映画の常時上映を行い、シアターの利用率を上げることが出来た。

(3) とっとりサンドパビリオンのオープン

秋に急遽決定したが、県や業者との連携を密に取って、1月末のオープンに間に合わせる事ができた。連日多くの来館者で賑わっているが、春休みでさらに来館者が増えてくる前にオペレーションの改善が必要。

2 令和8年度に取り組む重点項目

(1) とっとりサンドパビリオンの運営新規

R7年度は県庁と協力して運営している「とっとりサンドパビリオン」だが、新年度からは指定管理業務の一環として事業団のみでの運営となる。来館者増の効果がいつまで持続するかは不明だが、GWや夏休みといった従来の繁忙期にパンクしないよう、しっかり対策をして臨む必要がある。具体的には虫眼鏡デバイスのソフト、ハードの改良などを予定している。

(2) 春・夏の大型イベントの実施継続

春休み「ひらめきダンラボ(日本海新聞と共催)」、夏休み「アマゾン展(日本海新聞と共催)」の開催が決定している。春イベントはダンボール遊園地よりも料金も高く、来場者数は減少を見込むが、サンドパビリオン効果や夏のアマゾン展でカバーできる見込み。

(3) 冬の大型イベントの実施新規

春休みと夏休みに実施していた大型長期イベントについてR8年度は2月にも実施することが決定している。年間通じて繁忙期が続くことになるので、職員の負担にも配慮しながら取り組みたい。

3 令和8年度の収入確保策

※夢みなとタワーは、物価や人件費の高騰を受けた指定管理料の増額や、免税店テナント賃料、ソフトクリーム売店賃料で年間収入予算の82%は固定収入で安定する。これまでの取り組みによる収益確保は継続して行うが、積極的な修繕や備品更新、大型イベントなどにより、公共施設としての役割を最大限に発揮しながら、適正利益が出るように収支差をコントロールしていく。

4 令和8年度その他特記事項等

(1) シルバーウィーク対策

マルシェの引き合いがあるので、自主イベントよりは共催イベントを中心に組み立てていく予定。

令和8年度 とっとり花回廊事業計画

1 令和7年度重点項目の成果等

(1) 園の魅力アップ

- ・年間テーマ「ディスカバリー～新たな魅力を発見～」
- ・花の展示や野外アート展、食事やお土産でも楽しめる園づくりを実施
- ・子供の遊び場「モリノヒミツキチ」の遊具を拡張
- ・竹あかり、電気自動車、縁日など新たな要素を含むイルミネーションを開催
- ・多肉植物販売会、花と緑のフェア（造園協会主催）、コーヒーイベントを同時開催
- ・南部町・南部町観光協会主催「鳥取かぐや祭」で竹あかりのライトアップを実施
- ・地元テレビ局と連携した山陰最大級の花火大会を開催
- ・職員が手掛けたイルミネーションを米子高専のAI技術などの協力を得て開催
- ・かんぽ生命、HNK、南部町と協力し、夏期巡回ラジオ体操（全国放送）を開催
- ・友の会運営の効率化と多様なニーズに対応するため会員証のデジタル化を導入

(2) 花き園芸の振興

- ・花壇苗生産者の栽培技術向上のため県・全農・JAと共に巡回指導を実施
- ・園内で栽培・展示した県産苗や地元生産者仕入れ苗を園芸ショップで販売

(3) 集客促進

- ・VTuberグループによるプロモーション配信を活用し通年でのPRを実施
- ・音楽イベント、マルシェ、展示会など駐車場を活用したイベントを拡大
- ・台湾、ベトナムでの現地商談会への参加、旅行会社セールスを実施

(4) 販売・飲食事業の促進

- ・売店でオリジナル商品の開発、ポケモン関連商品の発売、全自動綿菓子機を設置
- ・レストランで南部町産黒毛和牛カレーの発売10周年記念キャンペーンを実施
- ・地元団体と協力した園外でのPRイベントで牛骨ラーメンの提供や物販を実施

(5) 交流の推進

- ・南部町の誕生祝事業への協力や二十歳の集いの会場として花回廊を活用
- ・米子高専の学生制作ベンチの寄贈や学生によるAIイルミネーションの制作
- ・三園（牧野植物園・あわじグリーン館）交流を継続

(6) 人材育成

- ・技術向上のためレオマ花ワールドなど他園の植栽管理や企画展示の視察を実施

2 令和8年度に取り組む重点項目

(1) 園の魅力アップ

① 植栽関係

- ・サクラやバラ、ユリ等のボリュームアップ及び品種数の充実 **拡充**
- ・タブの木の丘を「仮称：希望の丘」として再整備 **新規**
- ・花の谷「古代ゾーン」整備 **継続**
- ・フラワードーム内植物の整備 **拡充**
- ・視覚障がい者にも桜を感じられる芳香性のサクラ‘春めき’を植栽 **継続**

② 新品種の育成等

- ・鳥取県園芸試験場との協働、地元育種家との連携 **拡充**
- ・種苗関連メーカーの最新品種や国内外の有望品種の園内展示や技術研修を実施 **継続**

③ 体験メニュー等

- ・生き物観察会等の定期観察会や株分け講習会など体験教室 **継続**
- ・学校向けの園内を活用した体験メニューの利用促進 **拡充**
- ・有料の体験型ツアー **継続**

④ イベント関係

- ・地域の自治体や企業と連携した話題性のあるイベントを実施 **拡充**
- ・AI活用や没入型映像体験など米子高専と協力したイルミネーションを開催 **拡充**
- ・人気イラストレーターとのIPコラボイベントの開催 **新規**
- ・駐車場や屋外ステージを活用した外部イベントの利用を促進 **拡充**

(2) 花き園芸の振興

① 花壇苗供給体制の見直し

- ・県中部地区の生産者を加えた花壇苗供給体制の拡充 **拡充**

② 生産農家の育成

- ・県産花壇苗95%以上納品の確保 **継続**
- ・県、JAなど関係機関と連携して巡回指導 **継続**

<ul style="list-style-type: none"> ・園芸ショップでの県産苗の販売や県産切り花の企画展示を実施 拡充 ③ 次世代へ向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・難防除病害の原因特定と対策を鳥取大学に研究依頼し、栽培管理へ活用 継続 (3) 集客促進 <ul style="list-style-type: none"> ① 基本的な取り組み、連携等 <ul style="list-style-type: none"> ・皆生温泉旅館組合と地域における誘客の連携 継続 ② 情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・広報の効果を測定・分析して広報内容・手法・時期などを改善 継続 ・Google 検索の上位表示や AI を活用した口コミ対策サービスの利用を開始 新規 ・広報担当だけでなく園芸、売店など現場スタッフからも SNS による情報発信 継続 ・友の会会報誌のデジタル化より有益な情報をタイムリーに発信 新規 ③ サービス向上 <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインチケットを活用した魅力的な商品設定 拡充 ・夏休み小中学生の無料化の実施 継続 ④ 友の会 <ul style="list-style-type: none"> ・会員証のデジタル化の周知拡大とキャンペーンの実施 拡大 ・会報誌の WEB 化による利便性の向上と購読数の拡大 新規 (4) 販売・飲食事業の促進 <ul style="list-style-type: none"> ① 販売関係全般 <ul style="list-style-type: none"> ・顧客の動向を観察・研究し、速やかな売れ筋商品を提供 継続 ・園外での販売拡大 拡充 ② 土産・特産売店 <ul style="list-style-type: none"> ・地元の各種メーカーや事業者との共同開発により商品を充実 拡充 ・園内外の SNS で取り上げられる商品の展開 新規 ③ 園芸ショップ <ul style="list-style-type: none"> ・季節に合わせた展示レイアウト、商品ラインナップの見直し 新規 ・地元生産者、地元園芸店との連携 拡充 ④ レストラン <ul style="list-style-type: none"> ・園内イベントに合わせた一体感のあるメニュー提供 新規 ・団体メニューを見直し、インバウンドの利用促進を図る 拡充 ⑤ 屋台 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の声を取り入れたメニューやイベントに関連したメニュー開発 新規 ・外部への PR を兼ねた出店 拡充 (5) 交流の推進 <ul style="list-style-type: none"> ① 教育関係 <ul style="list-style-type: none"> ・小学生を対象とした花育講座「花はなクラブ」を運営 継続 ・米子高専との連携推進（ベンチ寄贈、イルミネーション共同研究等） 拡充 ② 各種団体との交流 <ul style="list-style-type: none"> ・キューケンホフ公園、三園交流（牧野、あわじ）、台湾肥料等 継続 (6) 人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ① 研修等 <ul style="list-style-type: none"> ・外部・内部研修、資格取得 継続 ・他植物園や先進観光地の視察 継続 ② その他 <ul style="list-style-type: none"> ・園芸部門の専門職化 継続
<p>3 令和 8 年度の収入確保策</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 入園者数と売上の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・2（1）園の魅力アップを前提に2（3）集客促進対策及び2（4）販売・飲食事業の促進を実行 (2) 友の会制度の見直し <ul style="list-style-type: none"> ・アナログとデジタルを両立させた新たな友の会制度を設計し、利用者ニーズへの対応とデジタル化による利便性の向上を図ることにより会員数の増加を目指す。 (3) アウトリーチ活動・駐車場イベントの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・大型の駐車場イベントの誘致、体験メニューの出張や園外イベント出店を実施
<p>4 令和 8 年度その他特記事項等</p> <p>引き続き鳥取県造園建設業協会とのコンソーシアムによる管理運営を継続し、園内樹木の適正な管理や工事等自主施工能力の向上、観光事業団職員のスキルアップに加え、園の魅力アップと地域活性化の推進を図る。</p>